

特集 被害者にも加害者にもならない! 悪質商法にだまされないために

# 「生きる力」としての消費者力



トラブルの電話相談を受ける県消費生活支援センターのスタッフ

心の隙につけ込み、巧妙な手口で金銭をだまし取る悪質業者が後を絶たない。最近は、デジタルコンテンツに関するトラブルが顕著で、インターネットやスマートフォンに触れる機会の多い若者や大学生がターゲットにされるケースが多い。

平成24年度に埼玉県の消費生活支援センターに寄せられた相談件数は46,785件。そのうち、29歳以下の若年層からの相談件数は5,487件。全体の13%を占める。若者からの相談内容で多いのは、サイトの登録料や使用料を不当に請求するワンクリック詐欺や、紹介料が得られるとして、消費者を販売員にしながら売買を広げていくマルチ商法だ。

「時代が変わっても人の心理は変わりません。大学生に関しては、就職活動の不安もあるが、将来への希望もある。悪質業者はその二つの心情を巧みに利用しようとします」と話すのは、埼玉県消費生活支援センター相談担当部長の平田範子さんだ。同センターではこうした消費者からの電話相談を受けながら、メールマガジンの配信やリーフレットの配布、さらには、県・民間企業・大学が連携した新しい消費者教育にも取り組み始めている。

もちろん、若者自身の積極的な行動も必要だ。同センターの学習支援担当部長の高山みどりさんは、

「消費に関する知識や仕組みを若者自身も勉強しておかなくてはなりません。自分の知識に新しい情報を交換することに意味があります。消費者問題はその人の生きる力に関わってくるんです」と話す。

一方で、若者の知識不足や経験不足だけでなく、社会の風潮にも原因があると指摘するのは、消費者問題に詳しい長田淳弁護士だ。「若い人がお金儲けを安易に考えている。だからこそ、うまい話にのってしまいやすい。楽をしてお金を得ようという社会の雰囲気が、知らず知らずのうちに若者の意識にも影響を与えていているのではないか」と、問題の背景をみる。

被害に遭わないために、平田さんは、「冷静に考えておかしいと思ったら、毅然と断ること。疲れても契約しない。そこで契約しなくとも損はないのですから。さらに、マルチ商法では被害者が加害者になる危険性も心に留めてください」と話す。長田弁護士は、「損と得の両方を踏まえながらリスクコントロールできることが大事です。また、被害者は秘密裏に契約し、一人で問題を抱えていることが多い。家族にも相談できないような契約はするべきではありません」とアドバイスをくださった。

被害者にも加害者にもならない。自ら考えて行動できる消費者であるためには、知識を身につけ、孤立せず、想像力を持つことが必要だ。

**埼玉県消費生活支援センター**  
☎048-261-0999/相談時間:9時~16時  
月~土(日・祝・12/29~1/3を除く)

悪質商法や詐欺被害では、高齢者だけでなく、若者の被害も深刻化している。しかし、被害に遭わないための知識や対応策を知らない若者が多く、泣き寝入りするケースも。春は新生活の季節。そこで、トラブルの実情に迫り、だまされる心理をひも解きながら、自立した消費者となるにはどうしたらよいかを取材した。

## インタビュー

### 自分はだまされないという“錯覚”

立正大学心理学部 西田公昭教授

なぜ人はだまされるのか。だまされるときの心理状態とはどのようなものか。その疑問を明らかにするため、マインドコントロールやだまされる心理の研究を行っている立正大学心理学部の西田公昭教授にお話を伺った。

—若者が巻き込まれている詐欺やトラブルの現状を教えてください。

西田教授 オレオレ詐欺の被害が主流の高齢者と違い、圧倒的にネット関係の被害が多いです。若者はtwitterやFacebookなどのSNSを頻繁に利用しており、そこからトラブルに巻き込まれやすいですね。

—そもそもなぜ人はだまされるのですか?

西田教授 自分がだまされないというのではなく、だまされながら生きていくのが人生です。例えば家族、友人、恋人に自分の秘密を全て打ち明けるでしょうか。隠すことには意がないとしても本質は変わらない。逆に、私たちは大した根拠もなく身近な人間を信用しやすくなることもあります。その意味では、信じることとだまされることは背中合わせだと思います。

—だまされやすい心理状態というものがあるのでしょうか?

西田教授 そうですね、自信過剰、心を乱されやすい、思い込みが激しい、人に相談しないなど、だまされやすい人の特徴は挙げられます。しかし、だまされやすさにさほど個人差はありません。むしろタイミングがポイントです。心が弱くなるときは誰にでもあり、だます側はその隙を狙ってくるんです。

—特に学生が陥りやすい心理や被害の

特徴とはどういうものですか?

西田教授 学生は「自分はお金がないから大丈夫」だと思いがちですが、相手はそこにつけ込み、言葉巧みに学生ローンに誘導しています。また、若者は友人間で口コミや紹介が広がりやすい。被害の連鎖も簡単に広がっていってしまうのが特徴といえます。

—対応策や心構えを教えてください。

西田教授 知識を身につけるのと同時に、トレーニングをすることです。天災が起つた時、日ごろから訓練をしていればとっさの行動ができる。それと同じなんです。断るシミュレーションをしたり、危ない場面に気付ける感性を磨いておいたり、スーパーのタイムセールや好評発売中の売り文句に安易に流されず疑つてかかるなり。さらに、信頼のある人間関係を構築して、何かあったときに相談しやすくすることも大事です。

—最後に、若者・大学生にアドバイスをお願いします!

西田教授 個人情報は常に危険にさらされ、だましの仕掛けがそれを待ちうけています。いつ自分が被害に遭遇してもおかしくないのです。だから、自分はだまされないという思い込みは捨てて。もしかしたらだまされるかもしれないという謙虚な姿勢に立って、警戒を怠らないようにしていくべきですね。

## 気を付けて! 身近に迫る魔の勧誘

最近、若者の間で、投資の勧誘を装って、そのノウハウについてのDVDを高額で販売するマルチ商法が広がっている。この手口から、からくも迷惑された大学生に話を聞いた。



体験者に伺いました

20代・男性  
大学生

Q1 始めはどう風に声をかけられたのですか?

A ある友人から「美味しい飲み屋があるから一緒にに行こう」と誘われたのがきっかけでした。しかし、「お金稼ぎたくない?」「すごい人に会わせたい」と言われて、一緒に喫茶店に行きました。一番奥の席に案内されたので、少し怪しい感じがしました。

Q2 友人が連れてきた「すごい人」とは?

A 友人から事前に「株と投資に興味あるふりして」と言われたので、宗教の勧誘ではないと気づきましたが、やってきた“すごい人”とは普通の大学生でした。投資で大金を稼いでいるんだと切り出し、ロレックスを買ったとかキャバクラでもてるとか、次々とエピソードを話しました。

Q3 実際に持ちかけられた話とは?

A 先物取引をしないかというものです。「日経

225先物取引はうまくやれば稼げる。でも、これを一般人がやるのは難しいんだ。だから、この取引で利益をあけているファンのやり方を真似しよう。そのためにノウハウのDVDが必要だ。1枚56万円!」と。

Q4 友人は既にそのDVDを買っていたのですか?

A 買っていたんです。56万も貯金がないので学生ローンを組んで払っていたようです。

Q5 つまり、マルチ商法ですか?

A そうです。商品を買って会員になった後、同じものを友人や知人にも売れば紹介料を得られるシステムのようでした。私は声をかけたことに悪意はなかったと思いますが、意識せざとも被害者が

加害者になることは十分ありますね。

Q6 どのように断つのですか?

A 正面から断るとごねられると思い、金額が大きいので一回帰ってから返事をすると言いました。「帰るとマイナスなことばかり考えちゃうからここで決めちゃいな」と引き留められましたが、ちゃんとした話ならむしろよく考えたいと答えました。連絡先も受け取らせてもらいました。

Q7 どうしてだまされずに済んだと思いますか?

A 慎重な性格が幸いしたと思います。それに、その時ちょうど大学で悪質商法について勉強していて、少し知識を持っていました。知識や情報は必要ですね。被害に遭つてからでは遅いですから。

間取り:ワンルーム(4畯)  
家賃:2.1万円  
通学時間:徒歩5分



たい。  
い呼びたい。  
と便利。  
よいでの工夫を。  
支出の割合

## 003 アパート

R.S.さん/新3年生・女子  
生活歴2年/趣味:ギター、絵を描く、裁縫

Good point

家賃の割にきれい。  
目の前に大家さん&防犯カメラほか  
女子専用アパートなので安心。  
大学に近く。

Weak point

防犯がしっかりしている反面、  
気をつかうので友達を呼びづらい。

Change

次はロフト付きがいい。  
ベッドの分のスペースを自由に使いたい。

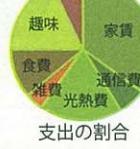
Advice

家事が不安かもしれないけれど、始めてしまえば案外できます!

間取り:1K(6畯)  
家賃:4万円  
通学時間:徒歩5分



上:自分で描いたイラストが独自の世界を作っている  
下:後輩からもらった思い出の色紙



## 004 シェアハウス

美谷島諒さん(ほか2人)/新4年生  
生活歴1年/趣味:映画制作・鑑賞、観劇

■間取り…6畯、4.5畯、4.5畯、8畯  
(共有スペースのリビング)

Good point

困ったとき同居人に頼れる。  
いつも誰かがいて楽しい。

Weak point

生活リズムが合わないと  
音などが気になる。

Change

理想は、一人暮らしにプラス、  
仲間と集まれるルームシェアを  
セカンドハウスにしたい。

Advice

支払いなど最低限のルール決めはしておく。  
価値観や生活リズムは互いに把握しておくと  
いいです。

間取り:3LDK  
家賃:5.5万円÷3=約1.83万円  
通学時間:徒歩1分



上・下:映画、音楽、旅など3人  
それぞれの趣味が部屋に反映されている



友達に声をかけて始めた3人暮らし。部屋の広さは個々に違うけど、家賃は同額でシェアをしています。途中、一人が留学していたので、その間は別の友人が入居していました。日々、自分が撮影した映画の上映会もリビングで開きます。